

# 主任コラム 10月号

主任 澤井 良子

朝夕が涼しくなり、子ども達も外遊びが楽しい季節になってきました。

## 【0・1歳児保育室】

(寝・食・遊)生活の場を0・1歳で分けるのではなく同じ空間の中で混ざり合いながら、発達に合わせて子ども達が自由に活動できるようにコーナーが設定されています。10月からは5名の新入園児が入ってくることになり、「4月当初の空間よりも、もっと0歳児・1歳児の発達に合わせた空間を作ったほうがいいのではないか？」という思いを0・1歳児の担任の先生達の方から伝えにきてくれました。

子どもの姿を毎日みている現場の先生だからこそ感じる、子どもにとって最善の空間の使い方・子ども達の発達(興味・関心)、月齢の小さい子とも関わりつつ大きい子の発達を保證できる環境を考えての2階の保育室が変化しました。子どもの姿はいつも同じではなく1年を通して変わっていきます。子ども達にとってなにが必要なのか、そこにいる保育士はどうしてあげたらいいのかを常に考えて保育していくことが大事だと、園児が帰った後に残って考えながら空間を作っていく先生達を見て思いました。

変化した空間でどのように過ごしているのかを後日見に行くと、絵本コーナーで読んでいる3人の1歳児の横で、おままごとコーナーからお茶碗とスプーンを持ってきた1歳児の姿を見ながら0歳児が食べる真似をしていました。全く違う事をしていたとしても、見る(視覚)からの刺激は大事です。絵本コーナーの使い方・友達との関わりをみているのかな?と私は見ながら思っていました。

また、1歳児がブロックを積み重ねているのをみて、ちょこちょこ歩いてきた0歳児が同じように積み重ねるのを真似ている姿も見られました。

## {以前の保育室 0・1歳児}



プレイルーム



ままごと



集まり・食事



昼寝



絵本

## {現在の保育室0・1歳児}



ブロックで1歳児の姿を見ている  
0歳児

## 【ランチルーム】

2歳児クラスの横にあるランチルームですが、2歳児が異年齢クラスに上がった時に大きい子の姿を見て真似することができるようにということと、大きい子も見られているという意識できちんとしたマナーで食事ができるようになること。そして、自ら選んでランチルームにお手本となって行ったり、ランチルームの人数制限を設けることで、子ども同士で誰が行くか相談し合って決めることを目的とできるような空間になればいいなと思っています。

最初はA・Bの各異年齢グループに『食事のマナーが守れて、2歳児のお手本になれて、ランチルームに行きたい子?』と聞きました。人数制限が10名だったので、行きたい子で毎日姿勢も良く、2歳児のお手本になれる子8名が選ばれました。年長児は男の子1名で『俺だけ年長の男の子1人や!』と喜んでいました。年中児2人、年少児も1人も選ばれて、照れながらも嬉しそうでした。2歳児クラスの子が見ている中、選ばれた子はランチルームで静かにお手本となり食べます。

ある日のメニューがカレーでした。2歳児の先生が「見て! Nちゃんのお皿ピカピカだよ。さすが年長さんで選ばれてきたんだもんね。すごい」と年長児に声をかけると、それを聞いていた2歳児のMちゃんが、

「Mもきれいに食べたよ!」と言い、年長さんの子も『どれ、みせて。本当だ。すごい!』と褒めてくれてMちゃんはその時は恥ずかしそうにしていました。そして家でお母さんに「M、おねえちゃん大好き。また一緒に給食食べたいな」と言っていたと聞きました。

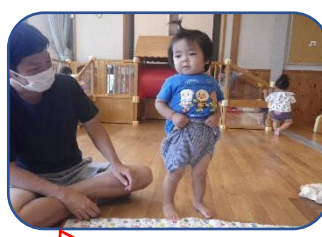
5歳児も保育士に誉められたことを嬉しく思い、2歳児に同じようにして褒めてあげるという幸せな時間が流れました。



先日受けた研修の中で、子どもが嬉しい時、一緒に喜んでくれる存在が大事だと言われました。このランチルームの事例もあてはまると思います。よく【主体的・主体性】といわれますが、子どもが主体的に自分で考えて行動できるようになるには、まず他者との関わり・信頼関係・愛着関係がなければなりません。子どもの負の状況の時に受け止めてくれる存在・頼まれたらやってくれる存在がいてこそ信頼関係が生まれてくるのだと言われました。子ども達にとって優しく温かく受け止め、一緒に喜べることができる保育士(大人)でありたいと思います。



朝の身辺整理



出来るの見てるよ



荷物みるね。